

研究最前線

THE FRONT LINE OF RESEARCH

国際日本学部

〈ドキュメンタリー演劇〉と/の日常

PROFILE



萩原 健
HAGIWARA Ken
国際日本学部教授

- 1972年 東京都生まれ
- 1996年 慶應義塾大学文学部卒業
- 2005年 東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得満期退学
同年 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館助手
- 2008年 明治大学国際日本学部専任講師
- 2013年 明治大学国際日本学部准教授
2016年から現職
博士(文学)

主な著書・論文
『演出家ビスカートアの仕事 ドキュメンタリー演劇の源流』(森話社・2017年)
The Routledge Companion to Theatre and Politics (共著・Routledge・2019年)
『演劇と音楽』(共編著・森話社・2020年)

所属学会
日本演劇学会、国際演劇学会 (IFTR)、ヨーロッパ日本研究協会 (EAJS)

演劇は非日常?

〈演劇〉や〈舞台芸術〉というと、どんなイメージでしょうか? 自分の日常とは縁遠い、非日常の世界が描かれ、現実を忘れさせてくれるもの、歌や踊りの場面が豊かで、人気のマンガ、アニメ、ゲームが原作ということもしばしば——といったところでしょうか。

〈記録演劇〉

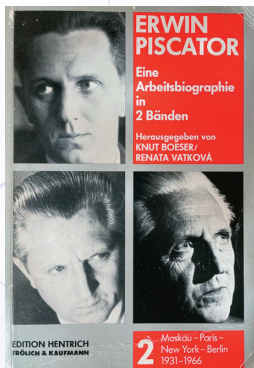
一方で、そうではなく、日常の現実の再発見や再認識を促す演劇があり、その一部が、時にヘドキュメンタリー演劇と呼ばれます。ちょうど映画の場合の〈映画〉に対する〈ドキュメンタリー映画〉に似ています。

ドキュメンタリー演劇の源流の

服〉の流れを促しました。

ビスカートアは、社会的な議論のきっかけをつくり、現実の世界を変えることを意図していました。多くの演劇が「出来事を再現すること」を旨としていた一方で、むしろ「出来事を生起させる」ことを主眼にしていたのです。演劇学者フィッシャー・ヒテの言い方にならば、「再現の秩序」ではなく

「現前の秩序」を重視していたのでした。



Boeser, Knut / Vatková, Renata (Hg.): Erwin Piscator. Eine Arbeitsbiographie in 2 Bänden, Bd. 2, Berlin (Frölich & Kaufmann) 1986.

日常のエキスパート

近年のドキュメンタリー演劇の旗手としては、演出家集団のリミニ・プロトコルが挙げられます。彼らはしばしば、制作する作品のテーマに即して、プロ俳優ではなく、そのテーマに通じた素人を「日常のエキスパート」として起用します。経営コンサルタント、トラックドライバー、特別養護施設の居住者といった人々が出演し、

自分の経験について語る上演は、さながらライブで展開されるドキュメンタリー映画です。

劇作家が書く戯曲(ドラマ)を出发点としない、演劇学者レーマンが言う〈ポストドラマ演劇〉の代表例でもあります。



レーマン、ハンス＝ティース『ポストドラマ演劇』同学社、2002年(原書1999年)

Malzacher, Florian / Dreyse, Miriam (Hg.): Rimini Protokoll - Experten des Alltags. Berlin (Alexander), 2007.



日本での実践

同様の演劇は現在、世界各国で制作されていて、日本でも多くの例が見受けられます。

館屋法水の『ブルーシート』は、東日本大震災の被災地の高校生たちの言葉から構成され、上演ではその高校生たち本人が出演しました。あるいは、介護福祉士でもある菅原直樹が演出し、老老介護の当事者が街頭で演じた〈徘徊演劇〉も目を引きます。世田谷パブリックシアターの『地域の物語』『ワークショップシリーズ』も、「生と性」「老い」「看取り」といった身近なテーマで、プロの作り手の指導のもと、一般の参加者(＝出演者)たちが自分の経験について議論し、上演内容を成立させていくプロセス



館屋法水『ブルーシート』白水社、2013年

日常の——あるいは日常となってしまうた非日常の——出来事こそが、こうした演劇の中核です。ひいては、上演が日常の出来事に溶け込んでいるようなケースもあります。

日常は舞台

ビスカートアは、非日常的な〈作品〉の完成を目指すのではなく、日常に新しい現実を生起させるための〈手段〉として、演劇を捉えました。そして現在、上記のような、日常の現実の再発見や再認識を促す演劇が、世界各地で展開されています。

演劇は、決してあなたの日常から縁遠いものではありません。「この世界すべてが一つの舞台、人はみな男も女も役者にすぎない」(シエイクスピア『お気に召すまま』二幕七場、松岡和子訳)——実際、すべての人がいつも何かの役割を演じて生きているのですから、演劇は実に、日常的な営みです。